



永山の未来を見据えて

令和7年度第2回福祉のネットワーク永山定例会

福祉のネットワーク永山の令和7年度第2回定例会が7月19日、諏訪地区市民ホールで開かれた。第1回定例会の結果を踏まえて「独居高齢者」「多世代交流」「居場所づくり」という三つのテーマを設け、参加者がテーマごとに分れてグループワークを行った。

独居高齢者「一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるためには？」

このテーマはAとBの2グループに分かれた。Aグループでは、地域コミュニティについて話し合われた。老人会を新たに作るのには難しいこともあり、既存の色々な集いで多様なつながりをもつのもいいのではないかとという話が出た。

イベント、お祭り、清掃デーには色々な世代が来るので高齢者も孤立しないのではないかと。最近の児童は公衆電話の使い方知らないが、高齢者が教えるといった交流もできるだろう。

独居高齢者には「備える」という意識をもってもらおう。それ

は将来の高齢者になる若手にも言える。

Bグループでは独居高齢者の安否確認を日常的にどう行うか話し合われた。個人情報の問題もあり、当事者が希望していないと支援が難しい。見守りが必要な人は、そのことを自分から発信できないだろうか。

独居高齢者の中には元気で活動している人もいれば、そうでない人、まったく無反応な人もいる。どうしたらよいのか。地域の人々が集まれようにおもしろいことを考えて種をまく。

ローカルの集まりを増やし、お互いの距離感を縮めてゆく。顔の見える関係づくりだ。

多世代交流「商店街や公園などで、多様な人たちが交流するためには？」

地域活動を活発にするためイベントを開催し、地域の知名度を上げるのが良いのではないかと。

全世代に共通して言えるのは集う場所。例えばお喋りする場所だとか、休憩するようなスペース、子どもたちに宿題を教えたりできる場所だ。公園などでイベント、お祭りが催されるが

これらを継続すると多世代交流ができるのではないかと。そうして地域活動の活性化を図る。

居場所づくり「みんなが気軽に集まれる場所を増やすためには？」

シャッター商店街の店を開けて本や趣味のものを飾ってみたり、そこで絵を描いてみたり、マジックを趣味にしている人はそこを発表の場にしたり、そんなことができる場所になったらいいなあ、という話になった。

多摩市ではサロンが多くある。サロンを開く場所は集会所のように、外から見ると何をやっていいるのかわからなく入りづらいという感じが否めない。そこで永山商店街のシャッターが下りた空き店舗を活用できたらいい。URや市と協力して居場所づくりができないだろうか。



各チーム話し合った
アイデアについて発表した

「〇〇さんがみた永山」

公営住宅での高齢化のあり方を探る
— 東京都立大学都市環境学部(当時)
マリオン・イル



八角堂でイベント
に協力する
マリオン氏

公営住宅に暮らす高齢者の生活と、地域社会との関わりについて研究を行っていた。私の調査では、多摩ニュータウンの中でも特に、永山、貝取、豊ヶ丘、諏訪といった地域に焦点を当てた。これらの地域は、公営住宅が多く、高齢者の比率も高いため、フィールドワークの対象として非常に魅力的だ。

インタビューを通じて明らかになったのは、高齢者の多くが自分の住む地域に非常に詳しく、まさに「地域の専門家」としての知識と経験を持っているということ。多摩ニュータウン特有の都市設計や住宅設計の特徴を理解し、それを日常生活にうまく取り入れて暮らしていることだ。

多摩ニュータウンのリアルな生活

興味深いのは、高齢者が「距離」や「店舗の閉店」に、それほど困っている様子がなく、若年層やメディアが伝

えるほどではないように見える点である。多くの方はすでに生活習慣が確立されており、徒歩20〜30分の距離も「健康維持のための運動」や「緑の中の散歩」として前向きに捉えている。大型店舗や質の高い商品を求めて、バスを利用する人も多く見られ、シルバーパスは非常に好評で歩行が困難な方でも、永山駅周辺や聖蹟桜ヶ丘などへ気軽に外出でき、地域の小規模店舗も利便性があり利用されているが、主な買い物の場とは考えられていないようだ。その一方で、福祉施設や地域イベントへの参加は非常に活発で、福祉亭のような地域に根ざした施設は特に高く評価されている。

また、多くの高齢者が永山、豊ヶ丘、諏訪、駅周辺など複数のエリアにまたがって活動しており、遊歩道を活用した移動と地域利用の広がりが見られる。滑りやすい道、坂や階段、エレベーターのない建物など、高齢者にとって物理的な課題もあるが、多くの方はそうした「不便さ」を「体を動かす機会」「環境を意識的にコントロールする手段」として捉えている。

次世代に向けた地域づくり

地域住民は、バリアフリー化の要望や街路の修繕、ベンチ設置といった提案も行い、地域改善にも積極的に関わっている。

こうした行動は、自分自身のためだけでなく今後の世代のためにも「より

良い地域」をつくらうという意識から来ているようだ。

多くの方がこの変化を「次の人生の章への準備」や「持たない暮らしへの一歩」として前向きに受け入れている様子が印象的だった。

ま・ち・か・ど

「瓜生の梅干し」 今年も出来ました。

永山6丁目の地元瓜生産の梅を材料とする梅干し作りは、今年も例年通り行われました。永山6丁目自主防災会の有志約10名が参加し、6月6日と8日に小野路第3公園の梅の木その他、瓜生小家庭の梅の木からも合わせて61kg収穫。水洗いした後塩漬け、6月16日に30束の赤紫蘇漬けの後、7月26日〜28日に3日間の天日干しを行い、昔ながらの素朴な味の「瓜生の梅」が出来上がりました。7月29日にパック詰め作業をして完成。今年は1パック400gで68個出来上がりしました。



みんなでパック詰め



福祉の

ネットワーク

永山って何？

永山地区の各団体・グループ等の住民同士がつながることで地域課題に向き合い、解決に取り組んでいきます。

☆主な会議・行事

・定例会：自治会・管理組合・団体等の意見交換会。奇数月に開催

・防災連絡会：永山地区、瓜生地区の自主防災組織を対象に各々隔月に連絡会議を開催

・まち歩き：毎月第2・最終火曜日に実施

・バス旅懇親会：遠出が大変!との声に応えて実施。5月、11月に予定。

・見守りさんぽ：毎週月曜日、永山地区・瓜生地区に分かれ15時30分から実施

・体操サロン：毎月第2水曜日13時30分〜 諏訪地区市民ホール他



広報誌に関するアンケートにご協力をお願いいたします